

平成25年5月21日

日本原子力発電株式会社

敦賀発電所敷地内破碎帯の評価に関する外部レビューグループの
合同会合における中間的なとりまとめについて（当社コメント）

本日、敦賀発電所敷地内破碎帯の評価に関する外部レビューグループ^(※)の合同会合が開催され、中間的なとりまとめが行われた。当社としては、これまでに行ってきた調査やそれに基づく科学的判断等に関し、客観的な立場から公正に評価して頂いたものと受け止めている。

また、本日の報告では、本件に関する調査等に関し、地質調査や議論の充実の必要性のほか、規制者、事業者及び外部専門家による合同での現地調査や評価の実施などについて、有益な提案を頂いた。さらに、データをよく見るべきとか、オープンなコミュニケーションが大事であるといった指摘も頂いた。

当社としてはこれらの提案を真摯に受け止め、現在実施している調査に反映していく考えである。また、特に規制者、事業者及び外部専門家の合同での調査や評価の実施については、今後、原子力規制委員会に対してもお願いしていきたいと考えている。

(※) 当社の調査及びそれに基づく科学的判断等について、第三者的立場からレビューを受け、その客観性を高めるとともに、得られた知見を当社報告に反映することを目的として実施。日米の地質・地震等の専門家を中心とした ScandPower Inc. 社のグループと、地質の専門家であるチャップマン教授をリーダーとした英国やニュージーランド等の専門家グループの2つのグループに委託し、評価及び助言をお願いしている。

以 上